

連番	指摘箇所	指摘事項	対応
1	全般	統計に用いられている指標等、用語の注釈を入れてほしい。	内部環境の指標につき、解説を用意した。(P11)
2	全般	大見出し、中見出し、小見出し、説明と見ていくと、説明と見出しが合致していない箇所があるので、記載内容を見直してもらいたい。(P4など)	内容を精査し、見出しや本文に修正を加えた。
3	全般	『安全安心』について、P6外部環境では「防災防犯意識を高める」、「消防救急体制の充実」などと狭義な内容であることに対し、P17内部環境では医療や健康寿命、犯罪等広義となっているので、語句の指す内容の統一が必要ではないか。	内容を精査し、本文においてふれる事項等に修正を加えた。また、分野の見出しを「健康・医療、安全安心等」と改めた。
4	全般	5次前期や後期の計画策定の際は、都市計画や財政の分析も行っているが、その調査はないのか。	「行財政」に関する補足資料として、P26～30に一般会計等に係る資料を追加した。
5	P3(2)	「基礎調査の内容」として、調査報告書に経過報告は不要ではないか。	経過報告の内容を削除し、スペースが空いたため。時代潮流、統計指標、課題の整理の説明を追記した。
6	外部環境全般	大きい括りのものから、個別的な政策へという順序に並べた方がわかりやすいのではないか。	内容のレベル感を勘案し、並べ替えた。
7	P6④	①の「高齢化の進行」との関係が強いため、項目を分けず、一連の流れでまとめた方が良いのではないか。	①でいう「高齢化」は、人口減少や人口構造の変化、それらが及ぼす社会的影響という流れで言及している。対して、④はQOL等個人生活の充実支援という側面から述べているので、中間報告のままとしている。
8	P7⑤	タイトルに多様性の「重視」とあるが、「尊重」という言葉を使った方が良いと思う。また、一か所「ですます調」になっているので、修正してほしい。	修正した。
9	P7⑤	「障害者」というキーワードがないため、内容に追記してもらいたい。	加筆した。
10	P7⑥	内容を見ると、国土強靱化・防災・防犯が並列で記載しているため、タイトルで自然災害等とまとめることに違和感がある。	タイトルを「安全・安心な暮らしに対する意識の高まり」とした。
11	P7⑥	能登半島地震の引用は近年の例として引用するには近視眼的すぎるのではないか。	具体的な災害を記載せず、異状気象への対応など、汎用的な表現に変更した。
12	P8⑦	ここでのSDGsには環境問題の記載しかない。タイトルを環境関連とした上で、各項目の説明の中でSDGsに触れるか、特出して③としてSDGsの内容を集約するか、どちらかにした方が良いのではないか。	内容を精査し、本文においてふれる事項等に修正を加えた。
13	P8⑧	取り上げられ方が少し唐突な印象があるので、まとめ方を検討してもらいたい。	⑧のDXにつなげる意図があるので、中間報告の位置のままとしている。
14	内部環境全般	比較対象が近い市ばかりで、目線が狭いように思う。首都圏平均や県平均を入れるなど、広い目線で見ることで論じられるものもあると思う。	埼玉県の数値を盛り込んだ。なお、国や、県外他自治体の数値は、比較が広汎となり過ぎ狙いがばやけることや、統計の数値が同一基準で算定されておらず比較困難(例：健康寿命)なケースがあるため、盛り込んでいない。
15	内部環境全般	高齢化への対応につながる調査が不足しているのではないか。例えば、統計指標に「介護認定率」などを入れた方が良いのではないか。	「要介護(要支援)認定率」を追加した。 ※ただし、認定率上位を見ると、秩父市・皆野町・小鹿野町に続くのがさいたま市であり、必ずしも「高齢化の状況」が反映されたものではないため、注意が必要と考える。
16	内部環境全般	比較対象都市について、競合・協力関係にあるという観点で抽出しているが、民間の場合では、目標とする相手を調査し、比較することが一般的ではないかと思う。民間調査などで朝霞より評価が高いと言われている都市を目標とするため、比較対象都市に入れることも検討してはどうか。	具体的な目標とすべき都市の選出が難しく、また、本市と馴染まない都市の比較になってしまうと効果が薄いと考えられるため、比較対象都市の変更は行わないが、埼玉県の数値を盛り込んだ。

17	内部環境全般	六角形のグラフについて、外に向かうほど良い指標となることが一般的であるが、現在、指標によっては外に向かうことが良くないものが混ざっており、情報が適切に伝わらないのではないか。 グラフが不格好になってしまい、見て違和感があるのは直した方が良いと思う。	全ての指標について、外に向かうほど良いものとなるよう、数値の修正を行った。
18	内部環境全般	外部環境と内部環境から主要課題を導くとのことだが、内部環境が他市との比較のみで、市の実情がわからない。内部と外部を比較できないので、外部環境に関連する市の数値が必要ではないか。	「健康・医療・安全安心等」に関する補足資料として、P24に自治体加入率の推移について追加した。
19	内部環境全般	町内会の加入率減少という市の情報が基礎調査内ではわからないので、そうした資料の追加が必要ではないか。	
20	都市比較<地勢>	比較対象が近隣・東武東上線沿線市となっている中で、日照時間等を比較する効果が薄いと思う。	日照時間に限らず、東武線沿線都市および県を比較する中で意義が薄いというご意見を踏まえ、「地勢」という項目そのものは削除し、通勤時間、住宅平均地価を他の分類に移動した。
21	都市比較<人口> P13	「人口」の分析において、「人口増減率」とあるが、何に対する増減率なのかかわからない。	内部環境の指標につき、解説を用意した。(P11)
22	都市比較<所得・住宅・生活環境> P21	「生活」の各指標について、指標が多岐に渡り、関連性が弱く、これらを一律に「生活」としてまとめることに違和感がある。	括りを「生活」から「所得・住宅・生活環境」に改めた。
23	全般	「まちづくりの主要課題」という表現があるが、「主要」と言い切ってよいのか。	「課題の整理」と表現を改めた。
24	全般 (課題の整理)	町内会の加入率減少など、コミュニティが希薄になっており、一方で地域共生社会を推進する上ではコミュニティが重要なことから、課題とすべきではないか。	地域コミュニティの担い手が減少していることについて、P34の課題(4)に追記した。
25	P34 (旧 P28)	「朝霞のライフスタイル」が何を指すのかわからない	「朝霞市での暮らし」と表現を改めた。